

哲学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
哲学特論Ⅰ	現代現象学	2	原 塑	前期 金曜3限
哲学特論Ⅱ	哲学的論理学入門	2	大森 仁	前期 火曜3限
哲学特論Ⅲ	哲学的論理学入門	2	大森 仁	後期 火曜3限
哲学特論Ⅳ	義務論の系譜と基礎	2	松本 大理	前期 月曜4限
哲学特論Ⅴ	解釈を仕上げていく技法: イマヌエル・カント『純粹理性批判』「純粹理性のアンチノミー」を題材として	2	千葉 清史	後期 集中講義
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	原 塑	前期 月曜5限
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	原 塑	後期 月曜5限
哲学研究演習Ⅰ	心の哲学英文基礎講読	2	原 塑	後期 金曜3限
古代中世哲学研究演習Ⅰ	プラトン『プロタゴラス』を 読む(1)	2	荻原 理	前期 火曜4限
古代中世哲学研究演習Ⅱ	プラトン『プロタゴラス』を 読む(2)	2	荻原 理	後期 火曜4限
科学哲学研究演習Ⅰ	『存在と時間』講読1	2	原 塑	前期 月曜3限
科学哲学研究演習Ⅱ	『存在と時間』講読2	2	原 塑	後期 月曜3限

科目名：哲学特論 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15306, 科目ナンバリング：LIH-PHI601J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代現象学

2. 授業の目的と概要：ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二他訳、勁草書房、2011年の前半の日本語訳を購読する。これは、意識や心の特質を、現象学の伝統と現代の心理学・神経科学の知見を融合させて明らかにしようとする書籍である。

3. 学習の到達目標：意識や心を現象学、心理学、神経科学の知見を融合させて、理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

該当書籍の各章を、一章あたり 3 回程度の授業時間を使って、読んでいく予定である。

授業の進行は以下の通り。

1. インTRODクシヨン
- 2～15. 『現象学的な心』読解

5. 成績評価方法：コメント (60%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書：ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二他訳、勁草書房、2011年

7. 授業時間外学習：該当書籍を自宅で精読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM12306, 科目ナンバリング：LIH-PHI602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：哲学的論理学入門

2・授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

3. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

6. 教科書および参考書：講義中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学特論Ⅲ

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM22302, 科目ナンバリング：LIH-PHI603J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：哲学的論理学入門

2・授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、多値論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。

3. 学習の到達目標：多値論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 多値論理の形式言語
- [3] 多値論理の意味論 (1)
- [4] 多値論理の意味論 (2)
- [5] 多値論理の意味論 (3)
- [6] 多値論理の意味論 (4)
- [7] 多値論理の証明体系 (1)
- [8] 多値論理の証明体系 (2)
- [9] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [10] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [11] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [12] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [13] 多値論理に関連する哲学的話題 (1)
- [14] 多値論理に関連する哲学的話題 (2)
- [15] まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

6. 教科書および参考書：講義中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学特論IV

曜日・講時：月曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：松本 大理

コード：LM11405, 科目ナンバリング：LIH-PHI604J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：義務論の系譜と基礎

2. 授業の目的と概要：義務論の考え方について理解を深めることを目的とする。関連する哲学思想上の論点も複数取り扱う。

3. 学習の到達目標：義務論の考え方と問題点について理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。

1. ガイダンス、イントロダクション
2. 規範倫理学における義務論の位置づけ 1
3. 規範倫理学における義務論の位置づけ 2
4. 系譜：カントまで
5. カント 1
6. カント 2
7. カント 3
8. W. D. ロスなど 1
9. W. D. ロスなど 2
10. ロールズ、討議倫理学など 1
11. ロールズ、討議倫理学など 2
12. コースガード、ダーウォル 1
13. コースガード、ダーウォル 2
14. 義務論の特徴分析 1
15. 義務論の特徴分析 2

5. 成績評価方法：小レポートおよび期末レポートによる評価を行う。

6. 教科書および参考書：必要な資料を適宜配布する。

7. 授業時間外学習：扱う哲学者の著作・論文をいろいろ読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学特論V

曜日・講時：集中講義

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：千葉 清史

コード：LM98820, 科目ナンバリング：LIH-PHI637J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：解釈を仕上げていく技法：イマヌエル・カント『純粋理性批判』『純粋理性のアンチノミー』を題材として

2・授業の目的と概要：哲学的テキストを十分に理解するためには、ただ漫然と読んでいるだけではダメである。要所要所で読解のための「補助線」を引き、また適切な解釈的問いを立てていくことが必要だ。《《仮説を立て、検証する》という手続きは文献解釈でも必要なのだ。》さて、適切な解釈的問いを立て、「正しい」解釈に到達するためにはどのようにしたらよいのか？

本講義で私は、特にイマヌエル・カント(著)『純粋理性批判』『純粋理性のアンチノミー』(以下「アンチノミー論」と略記)を題材とし、初学者が、どのような点に注目し、そしてどのような解釈的

3. 学習の到達目標：本講義を最後まで聴講するならば、結果的に、アンチノミー論全体についてのかかなり明瞭な理解が得られることだろう。しかし、本講義の眼目はむしろ、解釈スキルの養成にある。すなわち、テキスト読解に際して、履修者のみなさんが自分自身で適切な解釈的問いを立て、自ら解釈の精度を高めていけるように「なる」ことこそが、本講義の目標である。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

[第1日] 読解のための基礎事項

事前課題：アンチノミー論(のうち本講義で扱う箇所)を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭にまとめ、発表できるようにしておくこと。(レジュメ2部(自分用と提出用)を印刷して持参。第1回での履修者間での相互発表に用いるものなので、正式な論文・レポートの形式である必要はない。箇条書きのような形でもかまわない。)また、余力があれば、アンチノミー論第六節での「超越論的観念論」についてのカントの説明を読んできていただきたい。

第1回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認

第2回：アンチノミー論を理解するための基礎知識の説明(特に第一節)

第3回：解釈上の補助線の提示(1)/超越論的観念論について(第六節)

[第2日] アンチノミー論第七節(アンチノミーの一般的解決)の読解

事前課題：前回講義で与えられた解釈上の補助線に留意しつつ、第七節を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭かつ詳細な仕方でもまとめ、発表できるようにしておくこと(レジュメ2部を印刷して持参)。

第4回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認

第5回：第七節の解釈上の問題提起/統一的解釈の提示

第6回：解釈上の補助線の提示(2)：アンチノミーの解決の観点からアンチノミーの導出(第二節)を振り返るとどうなるか？

[第3日] アンチノミー論第二節(諸アンチノミーの導出)の読解

事前課題：事前に配布してある私の論文(15頁程度；日本語)を参考にしつつ、第二節の特に第一アンチノミーの導出の箇所を読み、定立・反定立の証明構造について小発表ができるようにしておくこと(レジュメ2部を印刷して持参)。

第7回：課題の相互発表/アンチノミーの導出の統一的構造の把握

第8回：アンチノミー導出・解決の統一的構造——すなわちアンチノミー論の全体像——の把握

第9回：問いの変更：アンチノミー論の理解ではなく、超越論的観念論の解明を目指すように解釈的問題設定を解釈の目的設定を変えたらどうなるか？ 二世界解釈と二側面解釈の導入。

[第4日] 超越論的観念論解釈の諸相

事前課題：『純粋理性批判』における、指定したテキスト箇所を読んでくる。また、大学院生は、事前に配布してある論文に目を通してきてもらえればなおよい。

第10回：二世界解釈/二側面解釈に関わるテキスト箇所の検討

第11回：私の解釈の紹介：二世界解釈を正当化する

第12回：新たな問題提起：カントの超越論的観念論によるアンチノミー解決によれば、条件系列は有限でもなければ実無限でもない；それは可能無限である。——しかし、「可能無限」とはどのような立場なのか、我々は本当にわかっているのだろうか？

[第5日] カントのアンチノミー解決を深掘りする

ねらい：現代の分析哲学や数学の哲学の道具立てを援用することによって、ただテキストを読んでいただけでは出てこないような新たな解釈的問いが立てられるようになり、このことを通じてテキスト解釈をさらに深めていくことができることを体験する。

事前課題：前回講義の問題設定を参考にして、アンチノミー論第九節の、とりわけ第一アンチノミーの解決の箇所(A517-523/B545-551)を読み、その内容について的小発表ができるようにしておくこと(レジュメ2部を印刷して持参)。また、「実無限」/「可能無限」の区別について簡単に調べてくること。

第13回：課題の相互発表/「可能無限」をめぐる問題の提示

第14回：直観主義数学を導きの糸として、可能無限の最初のモデルを得る

第15回：直観主義数学から得た成果を経験的領域に適用する際の諸問題の解決のアウトラインを紹介する

5. 成績評価方法：(1) 各回の授業課題：それぞれ 10% (計 50%)
(2) 授業での議論への貢献：50%

6. 教科書および参考書：教科書

イマヌエル・カント、『純粹理性批判』〔どの訳でもかまわないので、入手すること；ただし、岩波文庫（篠田訳）と光文社古典新訳文庫（中山訳）はお勧めしない。〕講義では基本的に日本語訳を用いるが、ドイツ語原文や英訳を参考にできる人はそうすることを強くお勧めする。

千葉 清史、『『純粹理性批判』諸アンチノミー導出の統一的構造』、日本カント協会（編）、『日本カント研究 9：カントと悪の問題』、理想社、2008 年、141-156 頁。（第 7 回授業で用いる。）

参考書

入門書

・御子柴善之、『自分で考える勇気

7. 授業時間外学習：上述の、毎回の事前課題を着実にやってくることを、そして何よりも、『純粹理性批判』の当該箇所を自分自身で読み込むことが必要となる。とりわけ、最初の二日分の事前課題のために読むべき箇所は多いので（[1 日目] アンチノミー論のうち本講義で扱う箇所全体；[2 日目] 特に第七節）、これに関しては講義開始前に十分に準備しておくことをお勧めする。

また、『純粹理性批判』事前知識は履修のための必要条件ではないが、あれば本講義をより有意義にすることができるだろう。上述「参考書」の「入門書」に挙げてある文献のほか、各自

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学総合演習 I

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：原 壘

コード：LM11506, **科目ナンバリング：**LIH-PHI606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2・授業の目的と概要： 口頭発表と討論を通して、哲学的な読解力、思考力、および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。当日の担当では、発表に続いて、あらかじめ指定した特定質問者を皮切りに、参加者による質疑応答・討論を行い、教員からのコメントを受ける。参加者は研究発表を通して、研究テーマの発見、文献収集と読解の技法、論文作成および発表の方法、質疑応答や討論の作法などについて、基礎的なトレーニングを積む。また、特定質問者の役割を果すこと

3. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的な読解力、思考力、および表現力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

5. 成績評価方法：研究発表をすること（単位認定のためには必須）。その上で発表内容 40%、討論 60%で評価する。

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿をクラスルームに投稿する。特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学総合演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 5限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：原 壘

コード：LM21506, **科目ナンバリング：**LIH-PHI607J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2・授業の目的と概要： 口頭発表と討論を通して、哲学的な読解力、思考力、および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。当日の担当では、発表に続いて、あらかじめ指定した特定質問者を皮切りに、参加者による質疑応答・討論を行い、教員からのコメントを受ける。参加者は研究発表を通して、研究テーマの発見、文献収集と読解の技法、論文作成および発表の方法、質疑応答や討論の作法などについて、基礎的なトレーニングを積む。また、特定質問者の役割を果すこと

3. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的な読解力、思考力、および表現力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

5. 成績評価方法：研究発表をすること（単位認定のためには必須）。その上で発表内容 40%、討論 60%で評価する。

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿をクラスルームに投稿する。特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学研究演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：原 壘

コード：LM25307, **科目ナンバリング：**LIH-PHI608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：心の哲学英文基礎講読

2・授業の目的と概要：心の哲学の基礎的なテキストを訳読形式で読む。テキストは以下を予定している。

David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," *Journal of Consciousness Studies*, 17, No. 9-10: 7-65.

3. 学習の到達目標：1. 心の哲学の基礎的な知見を理解する。
2. 英語で書かれた哲学文献を読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は以下の通り、進行する。

1. イントロダクション
- 2～15. 心の哲学関連文献の訳読

5. 成績評価方法：訳読 (60%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書：David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," *Journal of Consciousness Studies*, 17, No. 9-10: 7-65.

7. 授業時間外学習：課題テキストをあらかじめ、自宅等で読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は、哲学専修・倫理学専修学部 2 年生向けの演習である。ただし、他の専修の学生、学部 3・4 年生、大学院生であっても、希望する場合、受講してもよい。

科目名：古代中世哲学研究演習 I

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：荻原 理

コード：LM12407, **科目ナンバリング：**LIH-PHI610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：プラトン『プロタゴラス』を読む (1)

2・授業の目的と概要：古代ギリシャ語の初等文法を一通り学び終えていることが参加の条件（覚え残しが多々あってもよい）。プラトン『プロタゴラス』の原語（古代ギリシャ語）テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。今学期は冒頭から、順調にいけば 314e くらいまで進むであろう（続きは次学期）。主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。

3. 学習の到達目標：プラトン『プロタゴラス』の冒頭部分について、語学的、内容的に正確に説明し、問題提起できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった語学的・内容的な点を述べ、問題提起する。それをもとに皆で議論する。

校訂本は主に Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) のものを用いる。

適宜参照する訳は、中澤務訳、藤沢令夫訳、英訳は C. C. W. Taylor 訳、S. Lombardo & K. Bell 訳 (Cooper 編のプラトン全集所収)。

適宜参照する注釈は、上掲の Denyer の本に所収もの、上掲の Taylor の本に所収のものなど。

以下の予定は変更がありうる。

1. イントロ。309a
[今回のみ予習不要]
2. 309a-b
3. 309c-d
4. 310a-b
5. 310b-c
6. 310c-d
7. 310d-e
8. 310e-311b
9. 311b-d
10. 311e-312a
11. 312a-c
12. 312c-e
13. 313a-d
14. 313d-314b
15. 314b-e

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) を基本テキストとする。

参考書として

プラトン、中澤務訳『プロタゴラス—あるソフィストとの対話』（光文社古典新訳文庫、2010 年）

プラトン、藤沢令夫訳『プロタゴラス—ソフィストたち』（岩波文庫、1988 年）

C. C. W. Taylor (ed.), PPROTAGORAS (Clarendon Plato Series), revised

7. 授業時間外学習：次回に読む箇所を原語で読む（適宜、日本語訳や英訳、注釈を参照しながら）。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：荻原 理

コード：LM22407, **科目ナンバリング：**LIH-PHI611J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：プラトン『プロタゴラス』を読む (2)

2・授業の目的と概要：古代ギリシャ語の初等文法を一通り学び終えていることが参加の条件 (覚え残しが多々あってもよい)。プラトン『プロタゴラス』の原語 (古代ギリシャ語) テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。今学期は、前学期に進んだところからの続き。

主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。

3. 学習の到達目標：プラトン『プロタゴラス』の導入的部分について、語学的、内容的に正確に説明し、問題提起できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった語学的・内容的な点を述べ、問題提起する。それをもとに皆で議論する。

校訂本は主に Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) のものを用いる。

適宜参照する訳は、中澤務訳、藤沢令夫訳、英訳は C. C. W. Taylor 訳、S. Lombardo & K. Bell 訳 (Cooper 編のプラトン全集所収)。

適宜参照する注釈は、上掲の Denyer の本に所収もの、上掲の Taylor の本に所収のものなど。

第1回 イン트로。前学期に達した箇所から 10 行ほど (今回は予習不要)

第2回 続き 20 行ほど

第3回 続き 20 行ほど

第4回 続き 22 行ほど

第5回 続き 22 行ほど

第6回 続き 24 行ほど

第7回 続き 24 行ほど

第8回 続き 24 行ほど

第9回 続き 25 行ほど

第10回 続き 25 行ほど

第11回 続き 25 行ほど

第12回 続き 25 行ほど

第13回 続き 26 行ほど

第14回 続き 26 行ほど

第15回 続き 26 行ほど

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：Main text: Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008)

プラトン、中澤務訳『プロタゴラス—あるソフィストとの対話』(光文社古典新訳文庫、2010 年)

プラトン、藤沢令夫訳『プロタゴラス—ソフィストたち』(岩波文庫、1988 年)

C. C. W. Taylor (ed.), PPROTAGORAS (Clarendon Plato Series), revised edition,

7. 授業時間外学習：次回に読む箇所を原語で読む (適宜、日本語訳や英訳、注釈を参照しながら)。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：原 壘

コード：LM11308, **科目ナンバリング：**LIH-PHI616J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：『存在と時間』講読 1

2. 授業の目的と概要：マルティン・ハイデガーの著作である『存在と時間』のドイツ語原典を、その英語訳、日本語訳を参照しながら、購読する。

3. 学習の到達目標：1. 『存在と時間』の議論展開を理解できるようになる。
2. 哲学のテキストの読解能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2026 年前期には、『存在と時間』を最初から読む。

授業の進行は以下の通り。

1. インTRODクシヨン
- 2～15. 『存在と時間』読解

5. 成績評価方法：訳読の担当 (60%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書：Martin Heidegger, 1986, Sein und Zeit. Tübingen, Max Niemeyer Verlag. (PDF を配布する)
ハイデガー『存在と時間 I』『存在と時間 II』『存在と時間 III』、原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス。
マルティン・ハイデッガー『存在と時間 上』『存在と時間 下』、細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫。

7. 授業時間外学習：『存在と時間』の原典を自宅で訳読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM21306, 科目ナンバリング：LIH-PHI617J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『存在と時間』講読2

2. 授業の目的と概要：マルティン・ハイデガーの著作である『存在と時間』のドイツ語原典を、その英語訳、日本語訳を参照しながら、購読する。

3. 学習の到達目標：1. 『存在と時間』の議論展開を理解できるようになる。
2. 哲学のテキストの読解能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2026年後期には、前期に続いて、『存在と時間』を読む。

授業の進行は以下の通り。

1. インTRODクシヨン
- 2～15. 『存在と時間』読解

5. 成績評価方法：訳読の担当（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：Martin Heidegger, 1986, Sein und Zeit. Tübingen, Max Niemeyer Verlag. (PDFを配布する)
ハイデガー『存在と時間Ⅰ』『存在と時間Ⅱ』『存在と時間Ⅲ』、原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス。
マルティン・ハイデッガー『存在と時間 上』『存在と時間 下』、細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫。

7. 授業時間外学習：『存在と時間』の原典を自宅で訳読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：